

製品名: IDH3A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12355**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	IDH3A
別名	IDH3A; Isocitrate dehydrogenase [NAD] subunit alpha, mitochondrial; Isocitric dehydrogenase subunit alpha; NAD(+)-specific ICDH subunit alpha
遺伝子 ID	3419.0
SwissProt ID	P50213
免疫原	ヒト IDH3A の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

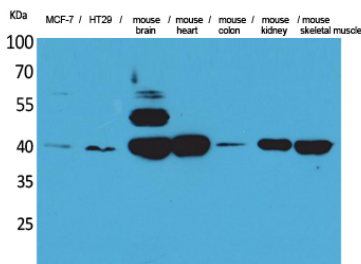
イソクエン酸脱水素酵素は、イソクエン酸から 2-オキソグルタル酸への酸化的脱炭酸反応を触媒する。これらの酵素は 2つの異なる

サブクラスに属し、1つは電子受容体として NAD(+) を利用し、もう1つは NADP(+) を利用する。5つのイソクエン酸脱水素酵素が報告されており、ミトコンドリアマトリックスに局在する NAD(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素が3つ、ミトコンドリアに局在し、もう1つは主に細胞質に局在する NADP(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素が2つである。NAD(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素は、トリカルボン酸回路のアロステリック制御律速段階を触媒する。各アイソザイムは、2つの α サブユニット、1つの β サブユニット、および1つの γ サブユニットからなるヘテロ四量体である。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、NAD(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素の1つのアイソザイムの α サブユニットである。[RefSeq 提供、2008年7月], 触媒活性: イソクエン酸 + NAD(+) = 2-オキソグルタル酸 + CO(2) + NADH., 補因子: サブユニットあたり1つのマグネシウムまたはマンガンイオンを結合する。類似性: イソクエン酸脱水素酵素およびイソプロピルリンゴ酸脱水素酵素ファミリーに属する。サブユニット: α 、 β 、 γ サブユニットのヘテロオリゴマーで、見かけの比率は 2:1:1 である。 ,

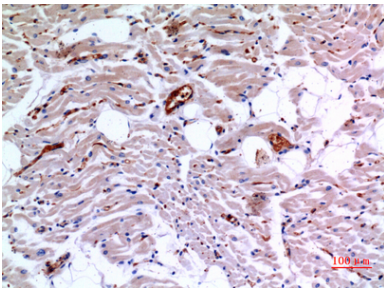
研究分野

クエン酸回路 (TCA 回路)

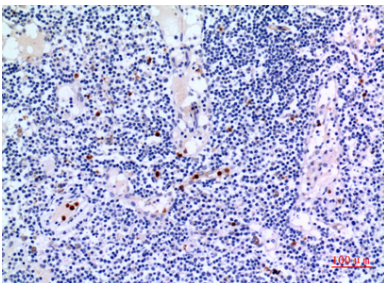
画像データ



IDH3A ポリクローナル抗体を用いた MCF-7、HT29、マウス脳、マウス心臓、マウス結腸、マウス腎臓、マウス骨格筋細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒトリンパ腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された